

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

教科研究生を経験「教職目指し大学院へ」

田邊ゼミのUさん

文学部・田邊祐司ゼミのY.Uさんは、英語の教員を目指し、さまざまな機会を利用して経験を積んできたが、4月から「教える」ことを体系的に学ぼうと広島大学大学院で「英語教育学」を専攻する。「4年間で『やりたいこと』のスタートラインに立てました」と卒業を前に振り返る。

2年次から教職課程を履修したため、ほぼ毎日4・5時限まで授業があった。3年次で教育版インターンシップ「教科研修生」の募集を知り、高大連携協定校(3面参照)である県立川崎高校に3カ月間、毎週金曜日に通った。「教員が授業をしている間、質問に答えたり、学習状況を見て回る『机間巡視』が主な仕事でした。最初は戸惑いがありましたが、何度か通ううちに、話しかけられることが多くなり、『心を開くことの大切さ』を実感しました」。

4年次に母校の中学で3週間の教育実習。「教科研修生を体験していたことで、自然に生徒の中に入っていくことが出来、『中・高』両方の生徒と接したことは貴重な経験となりました」。

「大学で何かを残したい」という気持ちで入学し、オリエンテーションで田邊先生に出会った。進路にも大きな影響を与えてくれた先生から英語だけでなく、「自主性の大切さ」を教えてもらったと感じている。

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

「ユビキタスな外国語学習」テーマに LL研究室「ワークショップ」 フルデジタル化されたLL教室で

LL研究室(三浦弘室長)主催の「ワークショップ」(共催＝全学FD委員会ほか)が12月9日、生田キャンパスで行われた＝写真。9回目の今年は「ユビキタスな外国語学習」をテーマに今後の外国語教育のあり方について意見を交わした。東京電機大学の吉成雄一郎教授による記念講演の後、本学の3教員が授業実践報告を行った。



06年9月に生田・神田両キャンパスすべてのLL教室及び自習室がフルデジタル化され、効果的な語学学習環境が整備された。これによりユビキタス時代に対応し、自宅学習も可能となった。また、同時通訳システムを導入し、リアルな通訳体験の授業が出来るようになった。

LL自習室は、本学学生であれば誰でも利用することが出来る。さまざまな教材が用意されているので、語学力の向上に活用しよう。

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

冬期日本語・日本事情プログラム

「延世大学（韓国）コース」を同時開講 7人参加

「2007年冬期日本語・日本事情プログラム」が1月15日、11カ国から32人が参加して始まった。協定校からの参加者対象の9週間コースと韓国・延世大学生対象の4週間コースを同時開講している。初の参加となった延世大学からの7人は全員ビギナーながら上達が早く、意欲的に取り組んでいる。大学院生4人に抱負を聞いた。

朴ポーラムさんは国際関係を研究。「英語に次ぐ外国語として日本語を学び、研究に生かしたい」と話す。「以前、広島に滞在したことがあり、親切な人々が印象に残った」と言う金智瑛さんは国際経営学を専攻。朴仁暎さんは「日本人のライフスタイルを実際に見てみたい」と話す。また国際貿易を専門にしている金世河さんは「日本語を上達させることで日本文化を深く理解したい」。発想が豊かなマンガ、映画など日本のサブカルチャーに引かれたという。



▲ウェルカム・パーティーでの延世大学生

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

長期交換留学生決まる（英語圏以外）

中国へ翁娟珍さん、ドイツへ奥田真結子さん

2007年度長期交換留学プログラムの中で、英語圏以外の派遣留学生が決まり1月25日、生田キャンパスで大林守国際交流センター長から留学許可書が交付された。

中国・上海大学（中国）への翁娟珍さん（経済2）とマルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク（ドイツ）への奥田真結子さん（文2）の二人。

翁さんは「8歳の時、中国福建省から家族と共に来日。家では中国語ですが、中国の文化や歴史、国際経済における中国の専門的知識や言葉を勉強したい」。

歴史学専攻に学ぶ奥田さんは「16世紀に活躍したブリューゲルの絵画など特にヨーロッパ文化が好きです。卒論（近江吉明ゼミ）に関連する知識を手に入れたい」と2人とも期待に胸を膨らませている。

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

4月から開始

専修大学では、小学校教諭の免許取得を希望する学生のニーズに応えるため、玉川大学(東京・町田市)と連携し、本年4月から「小学校教員養成特別プログラム」を開始する。

3年次から2年間、玉川大学の通信教育部で小学校教諭免許取得に必要な科目を「科目等履修生」として受講することで本学卒業時に、小学校教諭二種免許状を取得することが可能となる(本学の卒業要件単位と中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位取得が必要)。

教職課程協議会では、参加学生が安易な気持ちで取り組むことや、逆に過密な学習計画により、本学学生としての学習がおろそかになることを避けるため、参加条件を設定し、履修モデルの設計を行うなどの支援をしていく。

07年度の概要は次のとおり。問い合わせは、生田校舎教務課・資格課程係まで。

▼参加条件

次の条件を満たし、かつ書類選考及び面接に合格した者。

(1) 次の学部学科に在籍し、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得する者。

一部経済学部経済学科・国際経済学科、法学部法律学科、商学部商業学科、文学部日本語日本文学科・英語英米文学科・人文学科・心理学科、ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科

二部経済学部経済学科、法学部法律学科、商学部商業学科

※一部経営学部経営学科、商学部会計学科の学生は出願できない。

(2) 本学に2年以上在学し、07年4月から3年次になる者(編入学、学士入学者は除く)。

(3) 資格課程履修料を納金し、教職課程を履修し原則として1・2年次配当の「教職に関する科目」5科目10単位及び「免許法施行規則第66条の6」の単位を修得した者。

(4) 2年次前期までの成績の総平均点が75点程度以上の者。

(5) 教職に就くことを強く希望し、教員採用試験を受験することを誓約する者。

▼募集人数

5人

▼玉川大学通信教育課程における学習方法について

(1) テキスト履修

テキストを学習(自習)し、レポートを作成・提出し、科目試験を受験して単位を修得する。レポート(添削指導)と科目試験の両方に合格することで単位を修得することができる。

(2) スクーリング履修

夏期休暇期間に玉川大学へ通学し、一定期間授業を受け、最終日に試験を受験し、合格することで単位が修得できる。

(3) 教育実習について

本学で行う教育実習(中学校または高等学校で3週間)に加え、小学校で2~4週間教育実習を実施する。

▼玉川大学における学費等納付金(06年度実績)

総額30万6000円

<砂原委員長の話>

砂原由和・教職課程協議会委員長は、この特別プログラムに参加する学生への期待を次のように語っている。

「小学校の教員を目指す学生諸君は、このプログラムをぜひ有効に利用してほしいと思います。ただし、このプログラムは、小学校の教員になれることを保証するものでないのはもちろん、小学校教員の免許が取得できることを保証するものでもありません。用意されたのは小学校教員へと通ずる『道』だけ、しかも、相当に険しい道です。この道を歩もうとする諸君が、困難に負けることなく、目標まで歩き通されることを願っています」

【受験生特集】— さまざまなキャンパスライフを紹介します

中期留学プログラムに「中国語コース」を新設

実践に役立つ言語を集中的に学ぶ中期留学プログラムに、新しく中国語コースが2007年度から開設される。

中国語は、中国の経済発展に伴い日本でも注目を集め、大学では英語以外の外国語の中では人気が高い。本学では、従来の春期、夏期両プログラム(短期)と長期交換留学に加え、同プログラムのスタートにより、さらに多様な留学機会が得られる。

留学先は国際交流協定校の上海大学。外国人留学生用に設置されている集中中国語コースを履修する。期間は07年9月上旬から08年1月下旬までの20週間(既に申し込みは終了)。

中期留学プログラムは、ほかに英語コース(米国オレゴン大学など4大学)が実施されており、今後は他の言語でも実施が検討されている。

新たにアメリカ文化とサービスラーニングコース

短期語学研修の夏期留学プログラムに「アメリカ文化とサービスラーニングコース」が新設され、07年度から実施される。アメリカの文化や歴史を学びながらボランティア体験をするコースで、サスケハナ大学(ペンシルベニア州)で8月1日から19日まで行われる。

なお通常の語学研修は従来どおり行われ、英語、コリア語、ドイツ語、中国語の4コースがある。

詳しくは国際交流センターのホームページで。